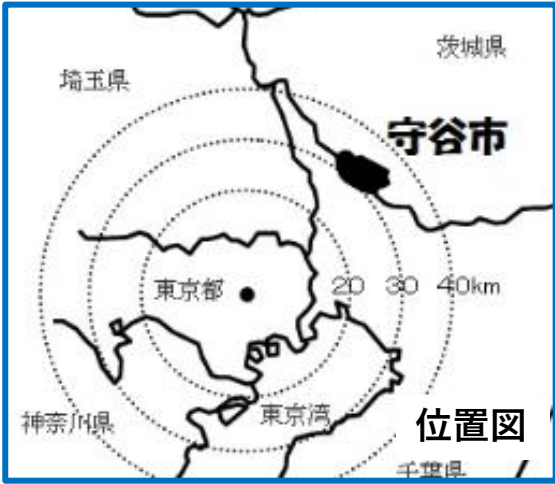


# グリーンインフラ×スマートシティ 自然共生型スマートシティモデル事業 (もりやグリーンインフラ推進協議会)

■グリーンインフラを活用したまちづくりとスマートシティ化を同時並行で推進し、  
**豊かな自然と共生し洗練された持続可能な未来都市（リバブルシティ）へ進化する**



- 対象区域の概要**
- ・名称 茨城県守谷市
  - ・面積 35.7 k m<sup>2</sup>
  - ・人口 6.9万人

■**対象区域のビジョン**  
首都近郊における豊かな水や緑の自然資源（グリーンインフラ）をバックグラウンドとした、都市の魅力向上を通じて、持続的な人や経済の流れを創出する。

■本事業全体の概要  
目標 Vision

🌳 緑きらめき 人が輝く 絆つなぐまち もりや 🌳

- ・市の自然資本（＝グリーンインフラ）を活用した都市のリノベーション
- ・新しい生活様式に適應した、オープンスペース活用型の都市形成
- ・グリーンインフラ×スマートシティによる持続可能なリバブルシティ

施策 Measure

<p><b>Main field</b></p> <p>都市の価値を高める ICT技術を導入した自然共生型・公共空間リノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地における自然共生型の賑わい空間の創出（守谷駅東口1.2ha）</li> <li>地域協働によるエコツーリズム型交流人口拡大促進（守谷 野鳥の道）</li> <li>官民連携（P-PFI型）による河川敷のオープンスペース整備（稲戸井調節地）</li> </ul>	<p><b>Monetization/Incentive</b></p> <p>環境配慮行動や事業を経済価値化するデジタルエコマネー・STO化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人の環境行動や健康行動に付加するMoirya Green Point（電子地域通貨）の導入</li> <li>STO化やグリーンボンド発行等、環境価値により投資を呼び込む</li> <li>環境配慮企業への優遇措置による企業誘致の促進</li> </ul>
--	--

Platform

- グリーンインフラを評価・マネジメントする市民参加型データプラットフォームの構築
- グリーンインフラの価値を見える化した“もりやGIマップ”作成と市民参加型オープンGIS化
- 市民生活総合支援アプリ“Morinfo”によるGPSデータ、その他人流データの活用



# グリーンインフラ×スマートシティ 自然共生型スマートシティモデル事業 (もりやグリーンインフラ推進協議会)

## ■ スマートシティの目標(KPI)

項目	KPI	現在	目標(2025年)
公園・緑地の価値が高まる	緑地の価値	生態系サービス経済価値 約3.4億円	3.6億円 (+5%)
	緑地の評価	自然環境への満足度 満足 80.8%	満足 85% (+1%/年)
高齢者の活動が活性化	高齢者の活動状況	(高齢者の一日あたりの移動距離)* (今後計測)	(移動距離+10%)
		(高齢者の外出頻度)* (今後計測)	(外出頻度+10%)
		シニアクラブ会員数	会員956人
子育て世代が活動しやすいまちなになる	子育て世代の活動状況	(子育て世代一日あたり移動距離)* (今後計測)	(移動距離+10%)
		(子育て世代の外出頻度)* (今後計測)	(外出頻度+10%)
		子育て世代の増加状況	ファミリーサポートセンター会員数 1,558人
地域のブランド力が上がる	転入者の増加	転入者数 +781人/年	+800人/年 (現状維持)
	地価の上昇	地価の変動率(対前年度比) 住宅地+1.1% 商業地+1.8%	住宅地+1.1% 商業地+1.8% (現状維持)
	Morinfoの普及状況	Morinfoアカウント取得率(%) 約3.9%	8% (+1%/年)

(斜体の項目)\* 今後、取り組みを進める中で計測を予定

## ■ 導入技術

## ■ 運営体制



### 課題

### グリーン&スマートでめざす課題解決

### 解決策：先進的技術を導入した取り組み

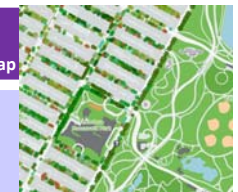
#### ① 住民の高齢化

早くに整備された地区は、高齢化が進みつつある。今後の深刻化が懸念。

自然の中での活動を促進し、コミュニケーションを通じた心身の健康 (well-being)

ウォーカブルシティ・ヘルスプロモーションを推進する 市民参加型GIプラットフォーム Fig: New York City Street Tree Map

市民参加型のグリーンインフラGIS  
・見頃な散策路や花などのコミュニケーション・市民参加型のイベント型街路樹点検・街路樹等のMAP化と経済価値の見える化



#### ② 子育て環境の充実

新たに若い世代を招くためには、子育て環境の充実が不可欠。

自然の中で子育てをしたくなる、質の高い芝地へのリノベーション

ロボットによる公共緑地の管理自動化 快適性・利用性モニタリング

庭芝ロボット技術の発展 写真: Miimo (HONDA)  
・緑地管理効率化+美しい芝生へ転換  
・温湿度センサーによるグリーンインフラの快適性モニタリング



#### ③ 都市間競争力強化

加速する人口減少の中、TX沿線市の中でも、独自の魅力創出が必要。

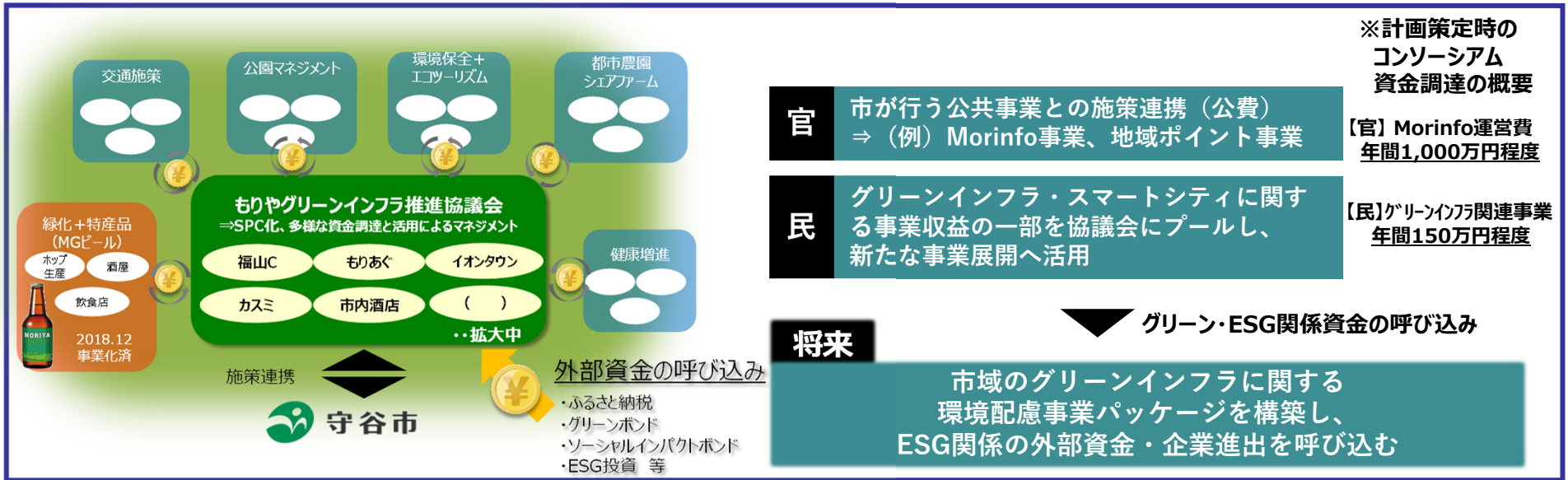
自然共生の地域ブランド化 エシカルなライフスタイルの提案

デジタルエコマネーによる環境配慮経済・エシカル消費の促進

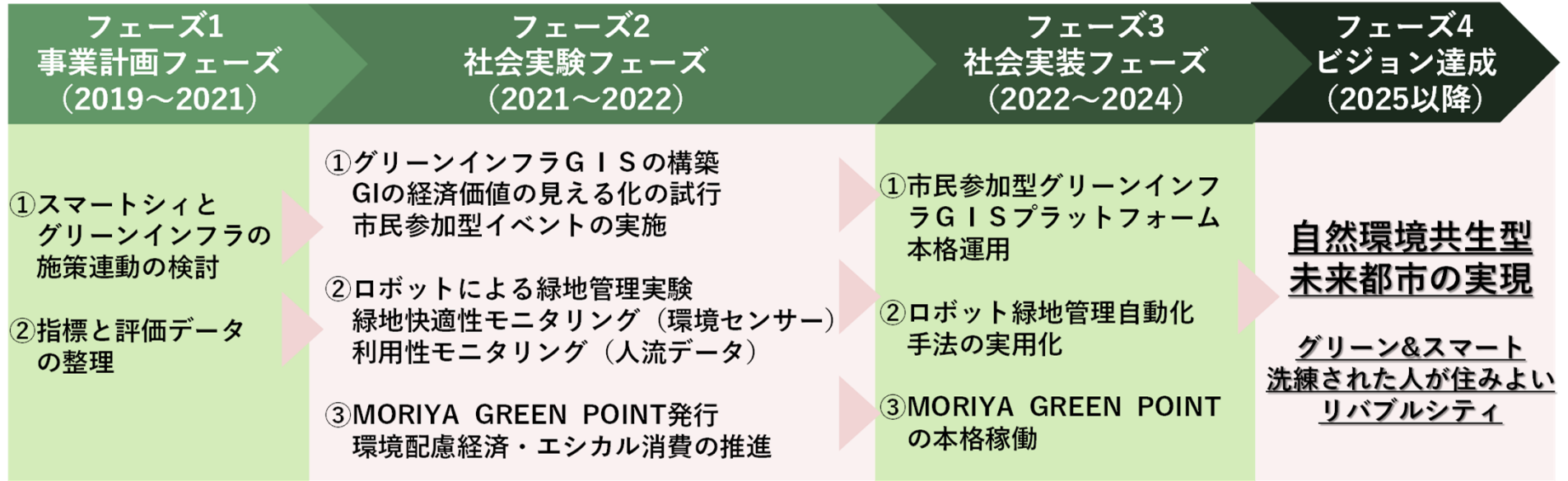
スマホアプリ「Morinfo」ポイント事業  
・環境配慮行動へのデジタルエコマネー発行  
・エシカル消費 (地域活性化、環境、社会に配慮したサービス) に使用可能な制度設計



## ■ビジネスモデル



## ■スケジュール



## 将来イメージ 豊かな自然と共生するサステイナブル×リバブルな未来都市

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

ESG都市ブランディング  
による  
移住・交流人口の増加

環境価値の地域経済価値化をICT技術で達成  
= 環境配慮型の持続可能な発展  
= エシカルサービスの拡大

市民投稿型・緑地モニタリング  
市民が楽しみながらグリーンインフラ  
価値計測と維持管理

地域通貨インセンティブによる  
環境配慮活動の促進と  
ソーシャルキャピタル形成

見頃な自然や散策路の情報共有、  
ウォークブルシティの構築



環境価値により  
投資と企業誘致を  
東京から呼び込む

ロボットや市民モニタリングによる  
良好なグリーンインフラの維持  
価値向上・都市の魅力向上

エコツーリズム型  
交流人口拡大促進

中心市街地における  
自然共生の賑わい空間

官民連携 (P-PFI型)  
河川敷活用



ESG配慮都市のブランディングによる移住や交流人口の増加  
投資や企業進出